

日本を代表する民間研究組織[HEAT20]と史幸工務店の取り組み！

HYBRID・ECO・HEART-Q

Q&A
HEAT20の家 ③

「省エネ基準」の最高等級4でも気密性能が悪いと！

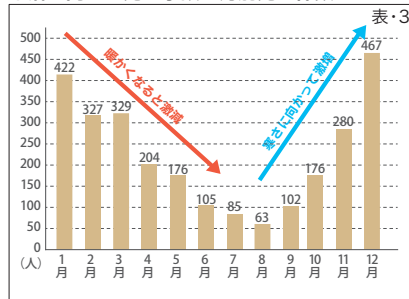


Q 熊本県の住宅性能は、低すぎるって本当ですか？

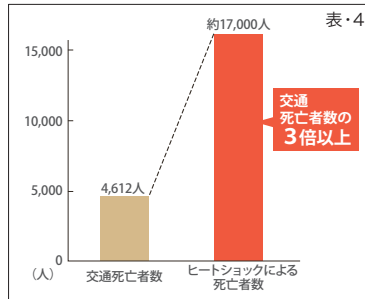
A 温熱環境が悪くて、発症する病気が多すぎます！

◎CPA(入浴中心肺停止)は、転倒事故ではなく住宅の寒さや温度差が原因！

●浴室内の死亡事故 月別死亡件数



●ヒートショックに関する死亡者数の比較



寒い住宅は交通事故の3倍以上も人の命を奪います。

交通事故死の3倍以上！



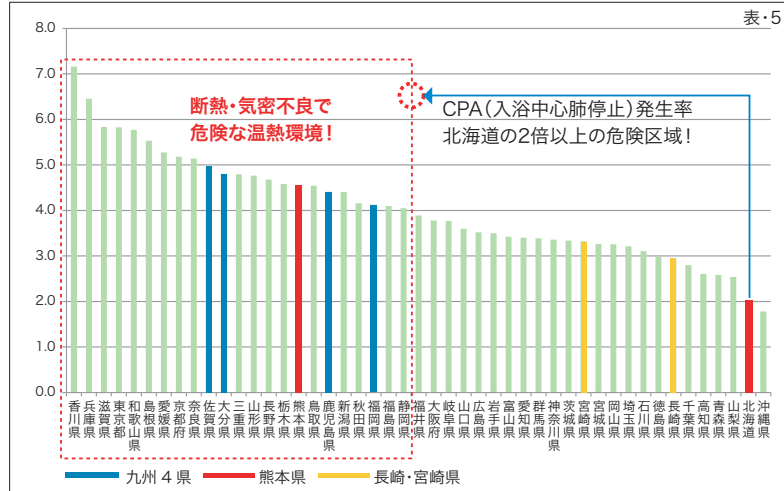
浴室死亡！



これが現実です！

◎熊本県のCPA(入浴中心肺停止)の死亡者は北海道の2倍以上！

●都道府県別に見た高齢者1万人当たりCPA(入浴中心肺停止)件数(件)



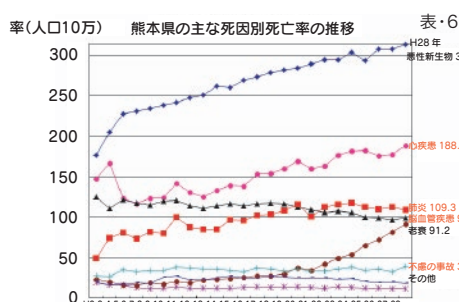
入浴中に「心肺停止」を発症した全国9360件の各県別データを分析した結果です。

浴室が寒いと温度の高い風呂に長風呂をして、体力を消耗させ、脳溢血や入浴中心肺停止の危険があります。住宅内が温かいと熱いお湯と長風呂の習慣が無くなります。



表・3、表・4、表5 出典：東京都健康長寿医療センター研究所「高齢者の入浴中の急死に関する調査」2011年総務省統計局「平成23年の交通事故死亡者数について」

◎悪性新生物(ガン)の他、熊本県の死因上位は、温度差が原因の心疾患・脳血管疾患！



■熊本県の平成 28 年の主な死因別死亡率は、①悪性新生物、②心疾患、③肺炎、④脳血管疾患、⑤老衰、⑥不慮の事故の順です。今までは、住宅の温度差は冬期の死亡原因を高めてきましたが、近年の夏の暑さは、熱中症という新たな疾患を生んでいます。熱中症は外での発症もありますが、高齢者の場合は室内での発症の方が多くなります。それは我慢して冷房を使わないからで、気兼ねなく冷房が使える住宅の高性能化による省エネルギーが求められています。

